

ラボの世界

THE WORLD OF LABO

- 01 10代とともに ～「うまくいかない」を翼に変えて
- 04 中国訪問プログラム 報告
- 05 2024 ラボ国際交流 応援特集
～応援メッセージ／未来につながる 国際交流体験／ほか
- 09 理事会・評議員会報告, ほか
- 10 東京言語研究所 集中講義 ～オノマトペの言語科学
- 11 Go Ahead! ～福岡県・井上佳那子氏
Information



北京市月坛中学校にて。
ラボ中国交流の再開をめざし、相互交流の意義を再確認する訪問となった。

10代とともに

真鍋 真

Makoto Manabe

古生物学者。国立科学博物館副館長、標本資料センター・コレクションディレクター、分子生物多様性研究資料センター長。博士(理学)。横浜国立大学教育学部卒。ミエール大学大学院修士課程、英ブリストル大学理学部博士課程修了。カナダ・ロイヤル・ティレル古生物学博物館客員研究員を歴任。著書に『きみも恐竜博士だ! 真鍋先生の恐竜教室』(岩波書店)、監修に『せいのれきし』(岩波書店)など。



撮影：与田松市

「うまくいかない」を翼に変えて

旅する暮らしにあこがれて

この仕事をしていると、「子どもの頃からの夢が叶ってよかったですね」とよくいわれるんですが、実際には違うんです。幼い頃に国立科学博物館で化石を見たときも、そんなには興味をもちませんでした。

旅行が好きでした。東京育ちなので、旅行に行くことや山や川があるということが楽しかったんです。海外にも興味があったので、高校生のとき、英語を話す機会をもとめて夏休みにイギリスに語学研修にも行きました。

そうしてだんだんと将来のことを考えはじめた頃、地理とか地学の授業を受けていると、先生が「夏休みにこんなところへ行った」とか「こんなものを見てきた」というような話をしてくれることがありました。私は「高校の地理や地学の先生になれば、いろいろなところに旅行できるかもしれない」と思って、そういう不純な動機で先生になろうと決めて、大学は教育学部の地学科に入りました。

大学生のうちに留学をしたかったので、奨学金制度を使って、地学研究の盛んなカナダに行きました。出発するときには、「留学できる!」という高揚感が強くて、不安はあまりありませんでした。私の場合、「楽しそうだな」「未来がありそうだな」と思い、考えすぎて思いつめてしまう前にスタートできたのがよかったのかもしれませんが。

約2億5,000万年前～6,600万年前の恐竜などの研究をされている真鍋さん。子どもの頃から恐竜が好きだったのではなく、さまざまな人との出会いが恐竜博士への道のりとなったそうです。恐竜のことだけではなく、ご自身の留学経験や、国立科学博物館でのお仕事の様子をお聞きました。

秩父とカナダはつながっていた

カナダの学校で、自分の大学での卒業研究の内容を発表する機会があったんです。そのときに、「埼玉県秩父の山の話なんてしても、みんな興味ないだろうなあ」と思ったんですが、しかたなく話しはじめました。

「岩石を顕微鏡で見ると、プランクトンのようなごく小さな生物がいて、それはこんな形をしているので、ここが海だったことや、1億5,000万年前の地層だということなどがわかりました」というようなことを話したんです。すると、そこにいた地質学の学生は、「あ。その化石、ぼくが調査しているロッキー山脈でも見つけたよ!」「同じ時代だね」といった具合に、どんどん話が盛りあがったんです。秩父もロッキー山脈も、当時は海でつながっていたので、同じような生き物がいたわけです。このときに、学問に国境はないんだなというあたりまえのことを実感しました。

プランクトンから恐竜へ

このままプランクトンのような顕微鏡サイズの化石を研究しようと思って帰国しました。その頃、日本では中生代の地層から恐竜の化石が発見され始めていて、大学の教授から恐竜の研究をすすめられました。当時の日本には、恐竜を研究できる人があまりいな

くて、せっかく化石が見つかったとしてもその研究が思うように進んでいませんでした。「恐竜もおもしろそうだな」と、もう一度カナダに戻って恐竜の勉強を始めようとも思ったのですが、より研究が盛んなアメリカに留学する奨学金をいただけることになりました。アメリカのイェール大学には「恐竜は絶滅したのではなく、鳥になって現代も進化を続けている」という、いまでは常識となった考えを提唱したジョン・オストロム先生という方がいらっしゃいました。その先生のもとで学びたくて、手紙を送ったところ、イェール大学に行けることになったんです。

研究者としてはすばらしいオストロム先生なのですが、学生を育てるということにはあまり関心がないようでした。授業も、「なにか質問があれば私のところにきてください」とだけいって終わりというようなこともありましたが、しかし生徒たちも食いさります。「先生は論文にこのように書いていますが、このことはどのように気づかれたんですか?」などと質問する。しかし先生は、「そもそも、その論文に書いてあることがなぜ正しいとわかるんですか?」と聞き返すんです。なかなか答えてくれませんが、でもそれは、いま思うととてもいい勉強なんです。先生はきっと、「論文に書いてあることを勉強するのではなく、自分で観察してたしかめないと自分の研究になら

10代とともに



ないよ」といいたかったんだと思います。

イェール大学で修士論文を提出したあと、イギリスのブリストル大学の先生からのお誘いもあり、イギリスに留学して博士号を取得しました。

博士号をもっているだけでは、暮らしていくことはできません。大学や博物館が出している研究員の公募に応募する必要があります。私の場合は、国立科学博物館に応募して運よく採用されました。

恐竜の研究をはじめたときは、3年くらい研究してみようかなと思っていたのですが、幸い今日まで研究を続けることができています。

興味をもってもらふこと

私が国立科学博物館に勤めはじめてから、30年ほどになります。ふだんは筑波にある研究室にすることが多いのですが、そこで中生代といわれている、いまからおよそ2億5,000万年前から6,600万年前の、化石になっている爬虫類や鳥類などを中心に研究をしています。最近だと、アルゼンチンのパタゴニア地方に発掘に行きました。そこで見つけた化石をもとに、論文を書くということをしています。

博物館の研究員の仕事というのは、貴重な標本や資料などを集めて、研究することです。化石や資料を収蔵庫できちんと保管し、そのなかの一部を博物館に展示することがあります。常設展だけでなく、特別展や企画展も開催していて、博物館に来られるみなさんに「どうやったらうまく伝わるか」「興味をもってもらえるか」を考えて展示しています。そのほかにも、本日のように、みなさんにお会いしてお話をさせていただくこともあります。これも、博物館の展示だけではなく、研究に

も興味、関心をもってもらい、次世代の研究者に育ててもらふためなんです。

だいじなのは「専門家ではない人」の意見

資料を展示する際に、気をつけないといけないことがあるんです。たとえば、ちょうどいま開催している「大哺乳類展3」という特別展があります。哺乳類の研究者がいろいろとアイデアを出しながら展示を考えるのですが、専門家であるがゆえに知識がたくさんあるんですね。なので「これは常識だから、説明しなくていいだろう」というふうで考えることがあるんです。でも、そういったことが、一般の方か小学生にはむずかしかったりする。そのことを意識しておくことがたいせつです。そういうことに気がつけるのは恐竜の専門家である私をふくめ、哺乳類を専門としていない、まわりの人たちなんですね。なので、展示の準備をしているときには、「この意味がわかりません」などとまわりの人が質問をして、ことばのキャッチボールをしながら進めていく必要があるんです。

恐竜は植物を食べるようになって大きくなった

「恐竜とほかの爬虫類の違いは何ですか?」という質問をよくもらいます。ワニとかトカゲを思い浮かべてください。これらはガニ股で膝が身体の横に突きだして、這って進みますよね。それが爬虫類の基本形です。一方、恐竜は膝を横に突き出しません。そうすると足のコンパスが長くなり、速く動くことができます。なので、獲物を追うときも、敵から逃げるときも有利になるのです。

「よく噛んで食べなさい」といわれたことはありますか? じつはあれは野菜を食べ

るときのことばなんです。野菜は繊維質が多いので、肉よりもよく噛まないと、消化できないんです。恐竜はもともと肉食だったのですが、進化のなかで草食の恐竜が現れました。初期の恐竜は歯が単純な形をしていたので、葉を噛みちぎって飲みこんでいたようです。そうすると植物繊維を消化するには長い腸が必要になってきます。そのぶん身体がどんどん大きくなっていったんです。

ふさふさの恐竜

恐竜はウロコに覆われていますが、鳥は足だけがウロコで、身体は羽毛がはえていますよね? なので以前は、鳥になってから羽毛がはえてきたと考えられていました。しかし、1990年代に羽毛がはえている恐竜の化石が中国で発見されます。身体の小さな肉食恐竜は、ほかの恐竜に襲われないように、木の上で生活するものがいただろうと考えられています。そのような恐竜のなかでウロコではなく羽毛がはえたものが出てきました。最初はフリースのような短い羽毛のようなものしか見つかっていなかったのですが、翼をもっていた羽毛恐竜も発見されるようになりました。翼があることで、木の枝から枝へ飛びうつったりするようになったでしょう。そのような恐竜のなかから始祖鳥が、そしてさまざまな鳥に進化していったと考えられています。

なぜフリースのような羽毛に進化してきたのでしょうか? 羽毛の起源は飛行ではなかったことがわかります。そしてこの時期に地球が寒くなってきたかということ、そうでもないんです。爬虫類は変温動物ですが、羽毛で身体が覆われていることで、彼らは気温が低くなる夜の時間帯にも、昼間と同じような体温

10代とともに

で活発に活動できるようになり、恒温動物に進化していったらしいことがわかってきました。

化石から鳴き声を推測する

恐竜の生態で、もっともわかっていないのが鳴き声です。化石として残りやすいのは骨や歯のような硬組織で、声帯のような軟組織はふつうは腐ってしまうので残りません。だから鳴き声などがいちばんわかっていないのです。

でも、たとえばパラサウロロフスという恐竜は、後頭部に細長い突起が出ているんですね。この突起、骨でできていて、中が空洞なんです。呼吸するとこの中を空気を通るので、トロンボーンのように音が出るのだらうといわれています。

国立科学博物館で2016年に開催した「恐

竜博2016」では、長い突起をもつおとなのパラサウロロフスと、短い突起をもつ子どもとで、鳴き声を比較しました。音が違うので、遠くにいて姿が見えなくても「子どもが鳴いている」とわかったのではないかと、ということを紹介したんです。

うまくいかないことの連続

自然科学の研究って、うまくいかない確率のほうが高いと思います。これまで世界中のたくさんの研究者たちが、いろいろな研究をやってきました。まだわかっていない謎を探しだして、それを研究して、新しいことを見つけないのは簡単ではなく、うまくいかないことばかりなんです。でもね、「うまくいかない確率が高いから」というやめてしまうのではなく、少しでもうまくいくように考えよう、くふうしようとやっていかなきゃならない。研究

がうまくいかないと憂鬱になることも多いです。私の場合は、ひとりしているとどんどん泥沼にはまっていってしまうので、友人や先輩など、まわりの人に相談できるということがとても重要だと思っています。

10代へのメッセージ

これから進路を選択していくと思うのですが、一度決めて進んだことでも「ちょっと違うかもしれない」と感じたら、がんばってしがみつくのではなくて、軌道修正していいと思います。そのなかで新たな好きなことをどんどん見つけていってください。

ドナルド・ヘンダーソンという恐竜の研究者がいます。彼はもともと数学の先生をしていましたが、職を失ってしまいます。途方にくれますが、「いま自分はなにがやりたいか」を考え、大学院に入りなおして恐竜の研究を始めました。彼は前職の数学の知識を生かして、恐竜の歩き方を数学的にシミュレーションするという、ほかの古生物学者にはなかなかできない研究で業績をあげました。

彼のような人を見てみると、それぞれに悩みやうまくいかないことがあったときにも、やり直してみたり、ほかのことにチャレンジしてみるといいと思います。ぜひみなさんも今日のことばのキャッチボールを時には思いだしてみてください。(文責:編集部)



インタビューを終えて

[取材協力] 東京都のラボ・パーティ
富田啓子P、櫻井 薫P、野村亜希子P

富田啓子パーティ

●高橋佑芽(大1) 真鍋先生のお話を聞いて、恐竜の生態やその時代の環境に興味が変わった。子どもを抱いたり物を運んだりするために二足歩行だったサルがいて、そのサルが私たちヒトの祖先である、ということだった。それを聞いて、もしサル全員が四足歩行をしていたら、文明や技術は今日のように進化していないのではないかと驚いた。大昔の恐竜がいた時代からの生物進化のもとに現在の私たちの生活があるのだと実感した。●本多真子(大1) 博物館でのお仕事や研究者としてどのような生活をしているかなどなかなか聞けないお話を聞けおもしろかったです。お話のなかで先

生はよく、これがだめだったらこれをしてみようとか第二の人生としてまたやってみようなど、視野をいつも広くもっておられました。私はまだそのように考えられません。ひとつの試験でさえびくびくしてしまいます。でも、新しい考えを知れたのでこれからはもう少しいろんなことを楽しめる気がします。

櫻井 薫パーティ

●古波蔵更紗(大3) 私は、恐竜はもとから四足歩行だと思っていたのですが、もともとは二足歩行で、消化のむずかしい草を食べようになってから、腸も身体も大きくなり、二足歩行より四足歩行のほうが身体をよく支えられるため四足歩行に進

化したと聞きおもしろいなと思いました。また、恐竜の鳴き声がいちばんわかっていないと聞きとても興味深いなと思いました。骨より痕跡が残りない声帯は再現しようがないと思いますが、いつかほんとうの恐竜の鳴き声を聞いてみたいと思いました。●飛田晴翔(中1) 真鍋先生の話聞いては、外国に行く壁が少し削れたと思います。どうということかというところは、外国に行くことは、怖いと思っていたのですが、少し行ってみようかなと思いはじめました。そして恐竜のことについてなるほど思ったことは、恐竜の声は、骨としてしか残らないので解明できないのですが、骨が硬いところからは、わかる場合があるといっていました。ほんとうはどんな声なのかなとも思いました。

野村亜希子パーティ

●田尻裕貴(大3) 真鍋先生は恐竜の研究をされているということで、きっと小さい頃から関心があって研

究者になられたのだと思っていたのですが、大学生になってから恐竜の道に進むことになったと知りとても驚きました。ぼくはいま、大学3年生で進路の選択に悩んでいるのですが、先生のお話を聞き、自分の興味ある方向に進んでいけばおのずと道が見えてくるのだと感じました。●佐藤陽太(大1) 真鍋先生の留学についての話を聞いて、自分も留学に行ってみたいと思いました。先生が大学生になってから恐竜に興味をもったことを聞いて、自分もいまのやりたいことを続けていたらほかのおもしろいことにも興味をもてるのかなと思いました。「研究はうまくいかないときの方が多から諦めずに試してみる」という考え方は、研究に限らず日常生活でもだいじなのかなと思ったので、挑戦してうまくいかなかったときでも諦めないようにしたいです。

[取材日] 2024年5月

中国訪問プログラム 報告

ラボ中国交流プログラム since 1986



新型コロナウイルスの影響で2020年以来中断を余儀なくされていたラボ中国交流の再開をめざして、ラボ・チューター6名と一般財団法人ラボ国際交流センターより理事長ほか2名、そして交流開始当初よりお世話になっている、旅行会社「オフィス華林」のスタッフ2名が、2024年3月18～23日に上海と北京を訪問しました。現地でのおもな活動を報告します。

3/19 上海外国語大学附属外国語学校訪問

校門で旧知の仲である日本語科の先生方との再会を大いに喜びあいました。校内では先生方との会話がはずみ、施設の見学、そして杜越華校長先生とも会談しました。杜校長先生から「ここから交流を再開し、今後発展させていきたい」とのメッセージをいただき、2024年冬の上海外国語学校からの訪日と2025年春のラボからの訪問を確認しました。



の交流については、広く独自のスペースをとって展示がなされており、訪問メンバー一同、北京市月壇中学校との長い歴史と深いつながり、また張校長先生のラボに対する強い思いを感じることでなりました。



3/22 李可染画院訪問

ラボ・ライブラリー『西遊記』の挿絵を描かれた李庚氏のいらっしゃる李可染画院を訪れました。『西遊記』が発刊された1985年からおよそ40年、李庚氏は元気に歓迎してくれました。そして来春には、ラボっ子たちが画院を訪問し、氏とともに絵画ワークショップを行なうという提案に歓迎の意を表していただきました。



3/21 北京市月壇中学校訪問

張文生校長先生や、安平先生、顔見知りの先生方が出迎えてくれて、ここでも久しぶりの再会を喜びあいました。

今後の春のラボからの訪問、夏の月壇中学校からの訪日についての文書に、張校長先生と林浩司理事長が署名をしました。その後、張校長先生の案内で、日本との交流を展示している資料室を参観。ラボと

北京市月壇中学校での会談で、「オフィス華林」代表の林淑英氏が、ラボと北京市月壇中学校との交流の始まりに関するエピソードを紹介してくださいました。中国の政府関係者が見守るなか、おとなにとっては緊張感がある家庭訪問から始まった1回目。交流する子どもたちのようすから段々と交流の意義が伝わり、日中の青少年交流史上初のホームステイが実現しました。この青少年交流に携わってきた人たちの熱い思いが、交流を絶やさず続けてこられた原動力であることを、その場にいた全員が感動をもって知る機会となりました。



報道から知る中国は限られた側面であり、実際は来てみないとわからない。中国は私たちが歓迎してくれる人たちが待っている国です。今夏からの再開をめざしての相互交流の意味は大きく、ラボの子どもたちにぜひ体験してほしいと願っています。

2024

ラボ国際交流 応援特集

☆… 2024年夏、全国から500名を超える参加者が海を渡ります。7月の出発までもう少し。みなさんはどんな準備をしていますか？ アメリカ、カナダ、ニュージーランド、韓国で、新しい出会いが待っています。

— 宇宙から見た地球は美しい。でも、それよりも人生のなかでいちばん大きな影響を与えてくれたのは、中学2年生のときにコロラドに行ってホームステイしたこと — 「ラボの世界」2015 冬号のインタビューでそう語ってくださった若田光一氏。この夏、国際交流へ参加するラボっ子へのメッセージをいただきました。

世界中の多くのみなさんと直接語りあい、互いを理解しあえる貴重な機会を通して、たくさんのことを学び、と同時に多くのみなさんに日本のすばらしさを伝えてください。

【プロフィール】

若田光一 (元 JAXA 宇宙飛行士, Axiom Space)

小学2年生でラボ・パーティに加入。1977年にラボ国際交流でアメリカ・コロラド州にホームステイ。5回の宇宙飛行における宇宙滞在時間は累計で504日18時間35分、日本人最長記録を更新。日本人ではじめて国際宇宙ステーションの船長を務めた。



画像提供：JAXA/NASA/Bill Stafford

We are all waiting for you to come! アメリカ、カナダの受入れ団体からのメッセージ

Marti Deyo

4H国際交流プログラム



みなさんがアメリカに来たら、みんなそれぞれ違った体験をします。なにをするにしても、家族と楽しい時間を過ごしてほしいです。

Takako Matsushita Bomba

カナダ・オンタリオ州



ホームステイは大きなチャレンジですがお互いに学びあい、新しい友達や家族を得るすばらしい機会です。

Jessica Smith

ユタ州・BRIE (Bear River Internation Ecxperience)



みなさんがユタに来て友情をはぐくみ、一生の思い出をつくってくれることを願っています。



Karen Yingling
ペンシルバニア州・メノナイト

ホストファミリーがみんなを待っています。私が全力でサポートしますし、わからないことは何でも聞いてください。

未来につながる 国際交流体験

国際交流でのさまざまな体験をとおして、自分の未来につながる一步を踏みだした先輩ラボっ子からのメッセージをご紹介します。みなさんの夏の体験が、次の一步につながりますように。



次の夢が見つかった

大野笑美菜 (高1 / 大分県・大野裕子P)

2023年北米交流参加 (アメリカ・ノースカロライナ州)

私は、中学3年生の夏にホームステイに行きました。最初とはまどうこともありましたが、現地で生活していくうちに英語にもなれて、うまく話せなくてもコミュニケーションをとることができたり、いっしょに遊んだりして、仲のいい子どもできました。ホームステイ先でできた友だち、家族、知り合い。そこからたくさんの感情をもらいました。私はコミュニケーションをとることの楽しさや、海外での人とのつながりのおもしろさに気づきました。

ホームステイを経験して私は高校の進路、そして将来のことを考えることができました。留学に行きたい、そのためにはもっと英語をがんばろうと、英語に力を入れている高校に行くことにしました。



ホストファミリーとサイクリング。自然がほんとうに壮大で、いまでも記憶に残っています！

また、感情が豊かになったり、感謝の気持ちをもつことが増えた気がします。それはホームステイ中にしぜん身についたもので、自分のなかで考え方が変わったなと思います。

ホストの誕生日。この日はホストの好きなこと、好きな食べ物ばかりだったので、ホストのことをたくさん知ることができた。いっしょにお祝いできたことがほんとうにうれしかった。

夢を追いかける覚悟ができた

高宮瑤子 (大1 / 長崎県・田平朋子P)

2018年北米交流参加 (カナダ・アルバータ州)

2021-2022年ラボ高校留学参加 (カナダ・アルバータ州)

私は7歳で「国境なき医師団」を知り、ずっと医師になりたいと考えてきました。しかし数学が苦手だったため高校では文系を選択し、夢は途絶えてしまいました。

私は運動も勉強も得意だったため、日本の学校生活では困ることはありませんでした。しかし国際交流に参加すると、得意だと思っていた英語は口から出ませんでした。でも私のつたない英語を理解しようしてくれる人たちと、少しずつだけれど英語で会話ができる感動を味わいました。ラボ・ライブラリーをたくさん聞いていたため、高校留学では相手がなにをいっているかはわかりました。しかしプライドが邪魔をして、まちがいを恐れて話しかけることができませんでした。このままではいけないと複数のクラブ活動に参加し、会話のきっかけをつくることで、たくさんの人と関係を深めることができました。

高校留学を経験し、日本での自分の環境が恵まれていたこと、自分がいまのままではなにも

できないことに気づきました。そんな自分でも医師となり研鑽を積むことで、医療を必要とする人たちを助けることができるかもしれない。いろいろなことに挑戦してきた経験から、一度はあきらめた夢にも挑戦してみようと、もう一度夢を追いかける覚悟ができました。帰国後、理系に転向して医学部に合格し、夢へのスタートを切ることができました。

同じ家にステイしていたベルギーの子にフランス語を教えてもらった。



高校留学も終わりに近づいた頃、ローブと帽子を着て近所を歩くところ、いろんな人が祝福してくれた。うれしかったけど少し寂しかった。

国際交流に参加するみなさんへ

1か月はあっという間です。部屋の中でひとりで過ごすことも可能だけれど、行く前にたてた目標を毎日見て、後悔することのないようにしてください。恥ずかしくても、文法や発音が違って、笑顔で、知っている英語で話してみてください。ラボ・ライブラリーをたくさん聞いて、テーマ活動でたくさんセリフをいつてきたみなさんは、英語の耳が身についています。自信をもって楽しんでください。

事前活動 全国で開催中

事前活動は、参加者一人ひとりの国際交流を有意義なものとするために準備する活動です。仲間との共同活動を通じ、発信力、コミュニケーション力、多様性の尊重など、交流にむかう態度とスキルを養っています。

事前活動スケジュール

- 1月末～2月
親子オリエンテーション
- ウィンターキャンプ
またはスプリングキャンプ参加
- 1月末～6月に4回の事前活動
- 一泊相互ホームステイ
- 事前合宿
- 国際交流のつどい・壮行会

グループで集まり、いっしょに国際交流に参加する仲間と交流をとおして準備をしています。「国際交流 HANDBOOK」や、ケーススタディに取りくんだり、日本や自分に関することを英語で伝えたり、自分の交流をイメージできるようなプログラムです。

| 支部 | 日時 |
|-------|-----------------|
| 東北 | 5月25日(土)～26日(日) |
| 東京 | 6月8日(土)～9日(日) |
| 神奈川 | 6月1日(土)～2日(日) |
| 千葉 | 6月1日(土)～2日(日) |
| 北関東信越 | 6月1日(土)～2日(日) |
| 中部 | 6月15日(土)～16日(日) |
| 関西 | 6月8日(土)～9日(日) |
| 中国 | 6月8日(土)～9日(日) |
| 四国 | 6月15日(土)～16日(日) |
| 九州 | 6月8日(土)～9日(日) |

オレゴン国際キャンプ 事前合宿

場所：ラボランドくろひめ

3/28～31

いっしょに参加する仲間と出会い、野外活動体験の充実とルールの習得、装備の説明など、現地での活動を想定したプログラムで事前合宿が開催されました。



植物を実際にさわってみる。
ふきのとうはどんな香りがするだろう？



自分たちでテントの設営ができるように練習



具材を選んで自分で
ランチ用サンドイッチをつくる



つどい・壮行会の日程

| 支部 | 日時 |
|--------|---------------|
| 東北 | 各地区で開催 |
| 北海道・東京 | 4～7月に各地区で開催 |
| 神奈川 | 3月17日㊤ |
| 千葉 | 6月末に各地区で開催 |
| 北関東信越 | 3月20日㊤㊦ |
| 中部 | 4月28日㊤ |
| 関西 | 6月30日㊤ |
| 中国 | 3月17日㊤ |
| 四国 | 6月16日㊤ |
| 九州・沖縄 | 3月20日㊤㊦ オンライン |

参加者の意識を高め、激励する会が全国各地で開催されています。参加者の決意表明、昨年国際交流に参加したラボっ子からの激励メッセージ、保護者からの激励、受入れ団体コーディネーターからのメッセージの紹介など、さまざまなプログラムで、出発までの気持ちを高めています。

参加者の意識を高め、激励する

会が全国各地で開催されています。参加者の決意表明、昨年国際交流に参加したラボっ子からの激励メッセージ、保護者からの激励、受入れ団体コーディネーターからのメッセージの紹介など、さまざまなプログラムで、出発までの気持ちを高めています。



神奈川支部ではラボ OB の仁衛琢磨氏（ソフトウェア開発会社経営）が激励講演に。1983年にラボ国際交流に参加した思い出とともに、「1か月という長い期間なのでネガティブな経験が起きる可能性もある。でもすべての人、すべての事柄がネガティブなわけではない。ぜひ気持ちを切りかえて過ごすようにしてほしい。事前活動をやればやるだけ最高の夏になる！」と語ってくれました。



私たちが引率します

全国引率者合同会議

日程：5/18(土)～19(日)

会場：ラボ教育センター 本社（新宿区）

今夏のラボ国際交流に対応する引率者が一堂に会し、引率者の役割と任務を確認する全国引率者合同会議を1泊2日で行ないました。チューター・シャペロン26名、カレッジリーダー14名、事務局スタッフ13名が参加、引率上の安全確認や、ケーススタディのワークショップなどを実施しました。

みなさんの国際交流体験が充実するように引率者がサポートします。



一般財団法人ラボ国際交流センター 理事会・評議員会報告

第53期(2024年4月1日～2025年3月31日)事業計画・収支予算を主たる議案とする理事会(理事10名、監事1名)が3月13日(水)に、評議員会(評議員11名、監事1名、理事2名)が3月29日(金)に、第52期(2023年4月1日～2024年3月31日)事業報告・収支決算を主たる議案とする理事会(理事10名、監事1名)が5月23日(木)に開催されました。会議は対面とオンライン併用で行なわれ、すべての議案は全員異議なく議決されました。定時評議員会(評議員11名、監事1名、理事2名)は6月11日(火)に予定されています。

第37期ラボ高校留学 全国事前研修合宿 4/27～29 東京都・国立オリンピック記念青少年総合センター

留学生17名(アメリカ、カナダ)が参加し、スタッフ2名、ラボ・インターン2名、ラボ高校留学経験者の大学生3名が対応。今回はインターンによるプログラムを中心に、レクチャーよりコミュニケーションをより重視したプログラムとしました。訪問国の全体像や高校生活、ホームステイについての説明、また参加者による英語でのプレゼンテーション、ケーススタディ、アメリカのラボ高校留学カウンセラーからオンラインで安全管理についてのプレゼンテーションなどが行なわれました。プログラムはほぼすべて英語で進行され、全国の仲間といっしょに留学するという心構えを新たにしました。

ラボ国際交流50年 記念図書発刊

『ラボっ子 旅に出る。—異文化をめぐる50年、そしていま—』

著：神山典士 富山房インターナショナル

記念図書を6月に発刊します。著者はラボOBでノンフィクション作家。

ひとりで1か月間のホームステイや短期留学に参加するプログラムになぜラボ会員の中学生や高校生は挑戦できるのか。幼少期からラボ会員に用意されている環境や、準備活動、現地でのようす、さらには交流プログラムに参加したOB・OGたちへのインタビューをもとに、彼らにはどんな力が育っているのかを神山氏が紐解いていきます。

※2024年財団特別会員、普通会员には6月に贈呈されます。

※ラボ・パーティの会員の方は「マイページ」で神山氏からのメッセージ動画が視聴できます。



ラボ国際交流50年 記念行事

コロナで一時中断していたラボ国際交流が50年を迎えます。

交流団体のひとつである4Hとの記念行事が、2024年11月12日(火)～16日(土)にアリゾナ州ツーソンで開催されます。

ラボからはラボ・チューターとラボ教育センター事務局員、ラボ国際交流センタースタッフ、あわせて25名の参加を予定しています。



オノマトペの言語科学

秋田喜美

名古屋大学文学部・大学院人文学研究科准教授。専門は認知・心理言語学。神戸大学大学院文化科学研究科博士課程修了(博士(学術))、日本学術振興会特別研究員PD(東京大学, カリフォルニア大学バークレー校), 大阪大学大学院言語文化研究科講師, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科准教授, 国立国語研究所客員准教授を経て, 2017年より現職。

東京言語研究所では、言語学を研究されている方や言語学に興味をおもちの方を対象にした「理論言語学講座」をはじめとして、さまざまな講座を開講しています。そのひとつである「集中講義」は、多様な研究の一領域を集中的に学ぶことができます。講師の秋田喜美氏から当日の講義概要をご紹介します。

ここ15年ほど、認知科学の分野でオノマトペ(擬音語, 擬態語)が注目を集めています。それも、おもしろおかしい表現としてではなく、言語の獲得や起源の謎を解く鍵として。今回の講義では、オノマトペ研究の基礎から最新の知見までを包括的に紹介しました。

オノマトペとは

そもそもオノマトペとは何でしょう? 「ボコボコ」「ニッコリ」「パリーン」と並べてみると、物事を音で直感的に写しとろうとする言語未満の存在のように思えるかもしれません。しかし、オノマトペは各言語の語彙体系の一部をなし、「ニャー」と“meow”のように言語によって異なります。最近の研究では、変わった音形(例:くり返し)をもつ、感覚情報(例:視覚, 触覚)を表わす、音形と意味が似ている、新たにつくりだせる(例:トゥルン), といった特徴でオノマトペという語類が定義されています。

世界のオノマトペ

オノマトペが豊富な言語は世界中に存在します。東インドのムンダ語では“ragad-ragad”というオノマトペで塩辛さを表わし、西アフリカのエウェ語では“yiboo”というオノマトペで黒さを表わします。味も色も、日本語のオノマトペではカバーしきれない情報です。



オノマトペは世界中の音声言語に発達している

オノマトペから見る言語の起源

世界中にオノマトペが存在するのは、人間の言語がオノマトペ的な模倣から始まったせいかもしれません。「言語オノマトペ起源説」は、子どもがオノマトペを早期に獲得することとも相性がよさそうです。また、音形と意味が似ているという性質(類像性)は、オノマトペ以外にもひろく認められることがわかっています。たとえば、粗さを表わすことばには、多くの言語で/r/が入っています(例:“karkea”(フィンランド語), “zakarra”(バスク語))。これは、この子音における舌の震えが粗い手触りに似ているためと考えられ、言語起源の痕跡なのかもしれません。

恣意性は記憶にも有利

- 恣意的

| | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | | | | |
| ピヤル | シヨル | ジュミ | ヒヤテ | リヤス | チヨベ |
- 類像的

| | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | | | | |
| ニエロ | ニヨロ | ニヤロ | ニヤレ | ニヨレ | ニユリ |

子どもは類像性が高い語から獲得するが(例:ワンワン>イヌ), 恣意性にはコミュニケーションや記憶に有利という利点がある

春期講座

4/13(土) ~ 14(日)

理論言語学の主要な研究領域をひろく学ぶことができる春期講座が開講されました。2日間で魅力ある現代言語学の主要な研究領域やアプローチを網羅して紹介するプログラムです。Zoomで開催された講座には、日本全国だけでなく、中国, タイ, ニュージーランド, オーストラリアからの参加者もありました。

理論言語学講座

オンラインガイダンス

4/20(土)

言語学のひろい領域について学べる理論言語学講座が5月13日(月)から開講します。それに先立ち、前期のオンラインガイダンスが開催され、尾上圭氏(東京大学名誉教授)のミニ講義「言語研究の面白さ」や、担当講師による講義内容の紹介がありました。講座は今期もZoomによるオンライン開催となります。



自分が選んだ道を正解に

井上佳那子

教諭

私がラボの国際交流で身につけた力。それは「自分が選んだ道を正解にする力」です。ラボの国際交流では、事前活動からホームステイを終えるまでのあいだ、子どもたちがさまざまなことを選択し、言語化するチャンスがたくさんあります。

例えば、私の選択と言語化も、出発前から始まっていました。運動部に所属しており、1か月休むことを顧問と仲間に伝えなければならなかったのです。申し訳ない気持ちで泣きながら伝えると、「がんばっておいで」と笑顔でいってくれました。このホームステイをぜったいに有意義なものにしてみせる。そう決心したので覚えています。

ホームステイが始まってからは、まさに選択と言語化の連続です。なかでもいちばん印象に残っているの



は、ホストとその友だちと遊んだときのことです。ふたりの話すスピードについていけず、自分だけおいていかれているような、さびしい気持ちになっていました。このままホームステイを終えたくない。私は勇気をもって伝える選択をしました。“Can you speak slowly?” あのととき、いやな顔ひとつせず私にも伝わるようふたりが話してくれたことは一生忘れません。

ちなみに私は、ホームステイのあいだ、毎日欠かさず「国際交流ノート」に英語と日本語で日記をつけていました。事前活動で、事務局スタッフの方が「体験は、言語化してはじめて経験となり、その人の力になる」とおっしゃっていたからです。これから国際交流に参加するみなさんも、ぜひ日記をつけてください。

こうして得た「自分の選んだ道を正解にする力」は、高校・大学時代はもちろん、社会に出てからも幾度となく私を支えてくれました。

もっとも大きかったのは、教員を一度辞め、イギリスに留学に行くこ

とを決めたときのことです。高校の英語の教員として働き、数年経った頃で、英語力・指導力向上のため、留学して英語教授資格 CELTA を取得したいと考えました。教員を一度辞めることはリスクもありましたが、怖くはありませんでした。なぜなら、理由をもって選択し言語化すれば、この道をぜったいに正解にできることを、ラボでの経験で知っていたからです。結果、資格取得はもちろん、世界中にたくさんの家族ができ、帰国後教員に復帰することもできました。

私は現在、母校の中高一貫校に勤めています。母校に戻る決断ができたのも、まさにこの力のおかげです。これから先もこの力を、未来をつくる生徒たちのために、そして自分のまわりのたいせつな人たちのために使っていきたいと思います。

みなさんのラボでの体験が、かけがえのない「経験」となることを、心から祈っています。

いのうえ かなこ = 福岡女学院中学校・高等学校 外国語(英語)科 教諭 (福岡県・井上節子パーティ OG)

Information

東京言語研究所

<2024年度第1回公開講座のご案内>

演題：英語文体論 (English Stylistics)
とはいかなる学問なのか

講師：斎藤兆史 (東京大学名誉教授
／英文学, 言語教育)

日時：6月8日(土) 14:00～17:00

受講形式：対面 (先着 20名) および
Zoom によるオンライン
講義併用

<2024年度理論言語学講座のご案内>

前期 5月13日より10週間 (終了
日は科目によって異なります)
※祝祭日は休講

認知言語学／社会言語学／生成文法
／言語学概論／調音音声学／言語心
理学／言語学入門／日本語文法理論

後期 10月7日より10週間 (終了
日は科目によって異なります)

※祝祭日は休講

認知言語学／語用論／生成文法／言
語学概論／史的言語学／日本語文法
理論／意味論／形態論・語形成論／
言語哲学

※くわしくはウェブサイトをご覧ください
<https://www.tokyo-gengo.gr.jp/>